

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

みずしま滞在型環境学習で
新たな“まちのにぎわい”を創ろう

公益財団法人 水島地域環境再生財団

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

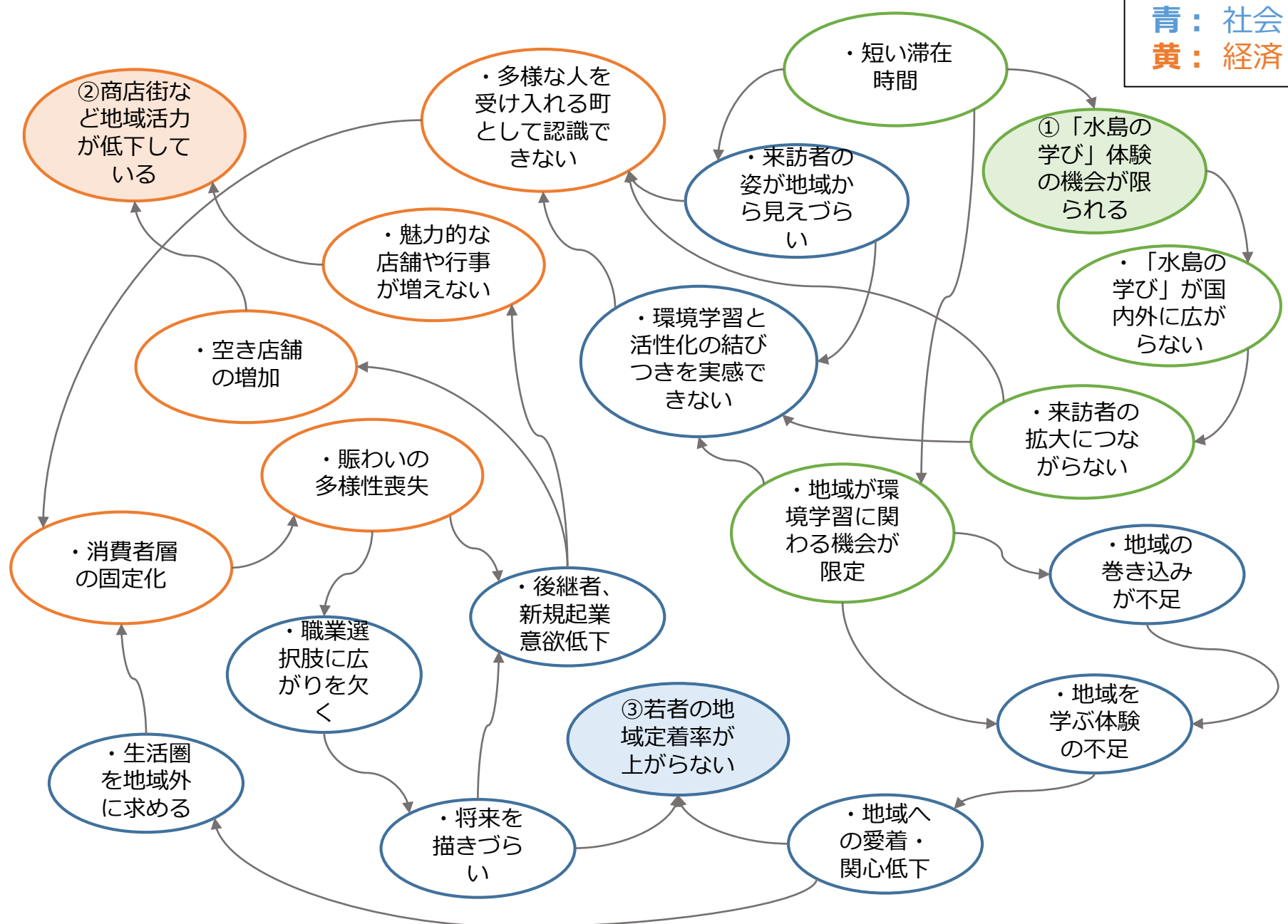
- ・国内有数のコンビナートを抱える岡山県倉敷市水島地域では、地域開発や公害経験を基に、環境をはじめ多面的な視点を持つ人材育成の場として「環境学習のまちづくり」を展開している。これまでも大学授業の一環や企業等の研修でエコツアーを受け入れてきた。その中で外国からの留学生や研修生にとって、水島の環境問題や克服の経験は重要な学びとして受け止められており、体験の充実が求められている。
- ・エコツアーで訪問者が増加しているものの、訪問による経済効果や地域との交流による地域の学びにつながっていない。滞在期間が短く、一過性の行事に止まっているため、地域の関わりが希薄で、広く住民や事業者に取り組みが浸透していない。
- ・倉敷市の調査（平成26年、書類上調査）では、人口48万人に対し約7,700戸の空き家があることが確認された。水島地域においても空き家が目立っており、防災、衛生、景観等への影響が懸念されている。商店街もシャッター店舗が目立ち、地域の活力低下が顕在化している。
- ・中高校生の地域離れが進み、活力低下の一因になっているのではないかと考えられている。

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

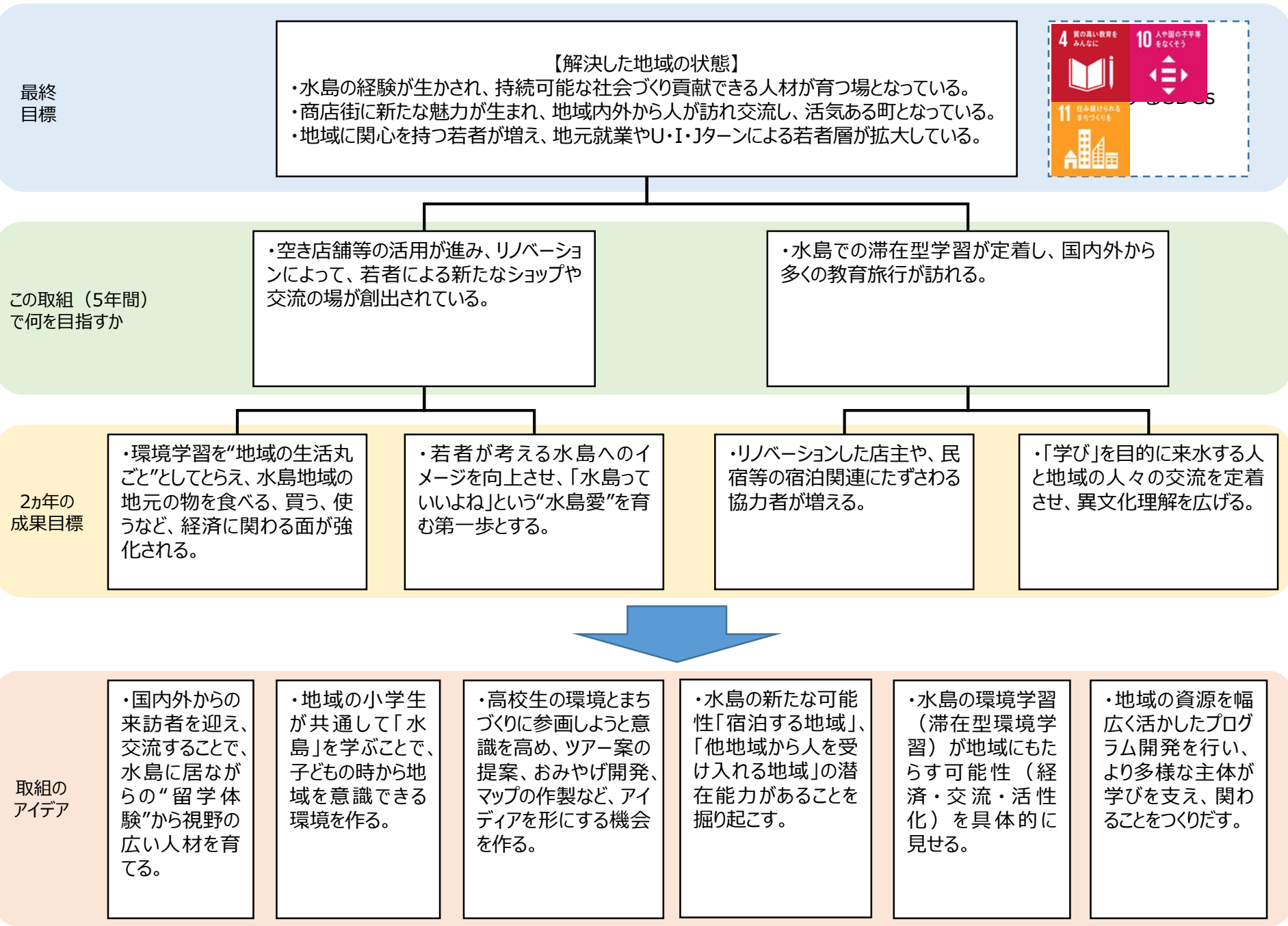
- ① 「水島の学び」体験の機会が限られる。
- ② 商店街など地域活力が低下している。
- ③ 若者の地域定着率が上がらない。

①-2 地域課題の整理（課題と課題の関係図） ※①-1を明示してください。

緑：環境
青：社会
黄：経済



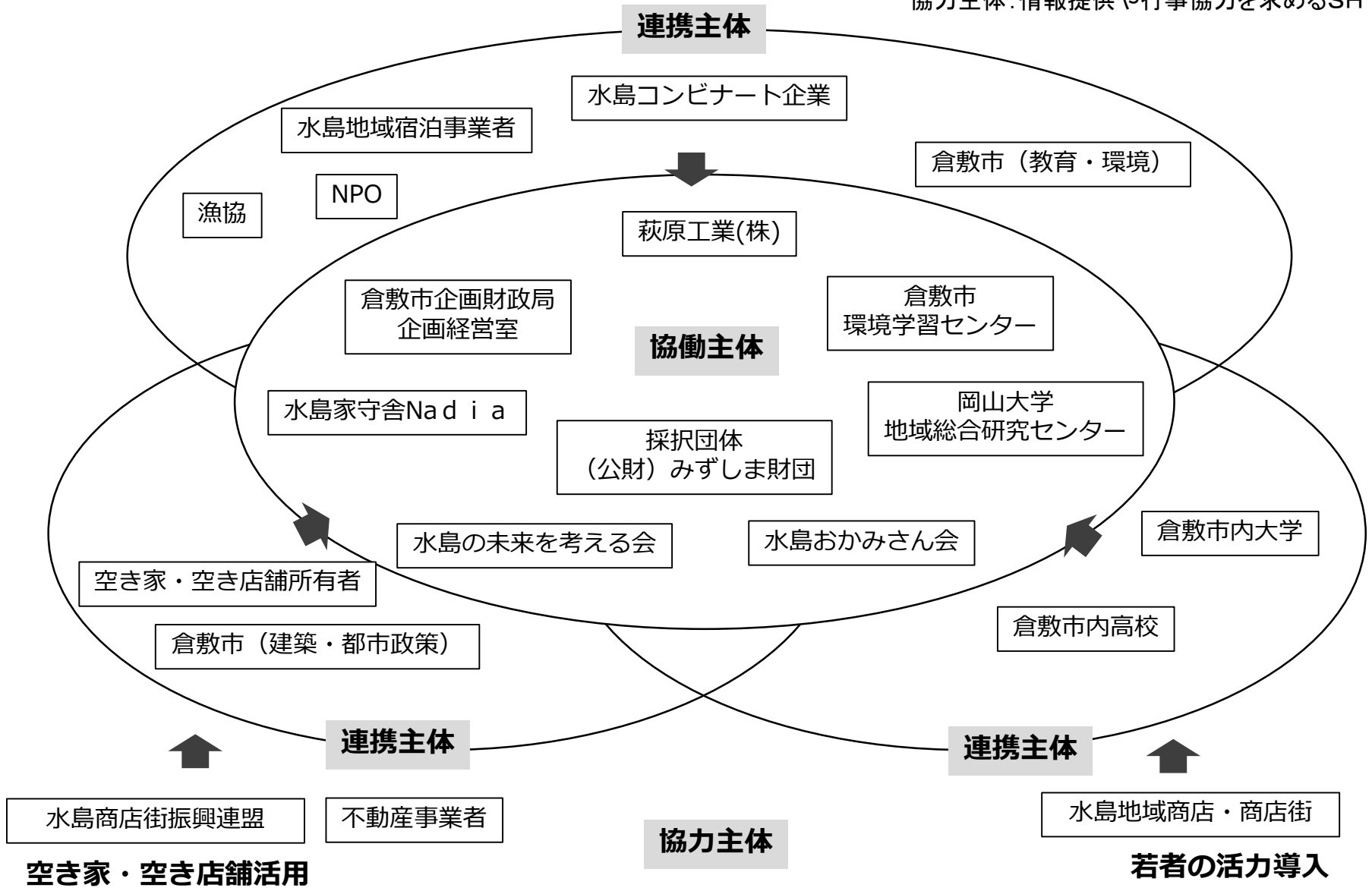
② 事業の整理 (同時解決マップ)



③ 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）

滞在型プログラムの充実

【定義】
 協働主体：事業全体を一緒に考えるSH
 連携主体：取組を進めるために必要なSH
 協力主体：情報提供や行事協力を求めるSH



連携主体

協働主体

協力主体

空き家・空き店舗活用

若者の活力導入

④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】 「水島の学び」体験の機会に限られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を活かしたプログラム開発を行い、多様な主体が学びを支え、関わることをつくり出す。自分とは違う他者を理解しようとする意識が芽生えるまちづくりの一步となる。 ・日帰りでかえらず、滞在して学ぶことで、工場に隣接する地域で暮らす人の視点、工場へ働きで働く人の視点を得ることができ、より生活に根差した多面的な学びとなる。 ・地域の小学生が共通して学ぶプログラムリストができて、学校へ提供できる。
<p>【取組課題②】 商店街など地域活力が低下している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けの客層が中心だった既存宿泊施設が、新規の客層の可能性をさぐることができる。 ・水島の新たな可能性「宿泊する地域」、「他地域から人を受け入れる地域」の潜在能力があることを発見できる。 ・商店街の空家、空き店舗調査の結果をまとめる。調査結果のまとめをもって、水島商振連、地元団体、宿泊施設関係者に説明と協力の呼びかけを行い、関係者を増やすことを目指す。
<p>【取組課題③】 若者の地域定着率が上がらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び」を目的に来水する若者と地域の中高生の交流の機会を水島学講座国際編として、3回実施する。 ・そのことを通じて、自らが暮らす地域で、異文化交流ができることや、水島地域特有の国際的な学びが“おもしろい”、“また行ってみたい”と、地元中高生の関心を高めることにつながる。 ・国際関係学などに関心ある中高生全員が、海外留学はできない（費用が高額で、経済格差がある）。水島で国際体験の一部ができることで、“水島留学”の可能性をさぐる。若者が考える水島へのイメージを向上させ、「水島っていいよね」という“水島愛”を育む第一歩とする。

⑤ 本事業計画の見通し

■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】 「水島の学び」体験の機会に限られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度に整理した学びのプログラムに基づき、環境学習を“地域の生活丸ごと”としてとらえる滞在型のツアーや大学の研修受け入れを重ねる。その中で水島の公害経験に基づき、様々な立場の人と交流を深め、多面的な思考や、持続可能な社会の在り方を学ぶことができる地域という認識が広がっている。 ・小学校向け出前授業のプログラムが整理されることで、小学校高学年の児童が、社会の授業で持続可能な社会について学ぶ機会ができています。
<p>【取組課題②】 商店街など地域活力が低下している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資源を活用した商品（おみやげ）開発に向けた、専門家による講座や地域資源の現状調査を行う水島学講座（商品開発編）を高校生向けに開催する。開発した商品を、地域のイベントで試験的に販売するなど、若者がまちづくりに関わる仕組みを作る。 ・滞在型環境学習の実践や商品開発を通じて、リノベーションした店主や、民宿等の宿泊関連に携わる協力者が増え、より地域全体としての魅力づくりの議論が進んでいる。
<p>【取組課題③】 若者の地域定着率が上がらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の若者が、「学び」を目的に来水する人との交流や異文化理解についての経験を積み、地元の資源を活かした商品開発に関わることで、地域への関心が高まっている。 ・高校生対象に「水島地域の環境・生活」アンケート調査を実施する。20年前の調査と比較を行い、高校生の地域への想いの変化を探るとともに、将来（20年後）の地域像を探る手掛かりが得られている。

■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか
<ul style="list-style-type: none"> ・水島での環境学習は、“地域の生活丸ごと”としてとらえ、多様な主体との交流や、地元の物を食べる、買う、使うといった経験を通じて、多面的で総合的なものの見方・価値観や、課題を発見し、解決のための方法を自分で考える力を持った、持続可能な社会づくりに貢献する人材を育成することのできる、「滞在して環境学習を学びに行く価値がある地域」というブランディングができています。（ゴール4） ・受入の基盤整備を議論する協働主体の掘り起こしを進め、空き家などを活用して、若者の滞在型の学びを受け入れる体制を整備することで他地域から人が集まる地域となり、異文化交流を通じて、地域が活性化することが期待できる。流域全体に若者が学びに訪れ、流域で活動する団体が活性化することが期待できる。（ゴール10、11） ・未利用だった空き家が活用されることで、安心して暮らせる地域づくりにつながる（ゴール11）。 ・地域に暮らす若者が、地域づくりや地域活性化に関わる機会が増えることで、地域への愛着をはぐくみ、将来地元で暮らし、働きたいと考える若者が増えている。（ゴール11）

⑥- 1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定	第1回連絡会	全国キックオフ ステークホルダーとの進捗状況の共有		ステークホルダーとの進捗状況の共有		ステークホルダーとの進捗状況の共有	自己評価 第2回連絡会		ステークホルダーとの進捗状況の共有
【取組課題①】 「水島の学び」体験の機会に限られる	7/23プログラム検討委員会発足 ・大学生向け研修案検討 ・小学生向け出前講座案検討	8/8～10モデルツアー実施（商店街・まちづくり）	高梁川流域の大学へモデルツアー報告と次回案内送付、募集スタート	第2回プログラム検討委員会 → 参加集約	11/24～25第2回モデルツアー実施（海）	↑ シンポジウム		第3回プログラム検討委員会	プログラム集印刷・発送 水島地域内小学校に配布
【取組課題②】 商店街など地域活力が低下している	調査の設計 → 実施 ・宿泊施設一覧作成 ・ヒアリング項目検討 ・既存空き店舗調査の状況把握（商振連） ・空き家情報収集ルート検討、地区選定	・既存宿泊施設へのヒアリング			・空き店舗空き家調査 → とりまとめ ・空き家リノベーション事例の把握 → 空き家リノベーション事例ヒアリング		空家・空き店舗調査の結果を関係者に説明		
【取組課題③】 若者の地域定着率が上がらない		8/16 第2回水島学講座国際編（環境・エネルギー）／高校生と大学生・留学生の交流				第3回水島学講座国際編（インドネシア音楽と文化）／高校生と大学生・留学生の交流		高校生対象「水島地域の環境・生活調査」の設計	市内高校への説明 →

⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定		ステークホルダーとの進捗状況の共有	第3回連絡会		ステークホルダーとの進捗状況の共有		ステークホルダーとの進捗状況の共有	第4回連絡会		ステークホルダーとの進捗状況の共有	最終報告会	
【取組課題①】 「水島の学び」体験の機会が限られる	小学校に出前講座の活用を働きかける 大学に研修の働きかけ	小学校出前講座の受け入れ（適宜） 大学の研修受け入れ（適宜）	水島エコツアー実施（まちづくり編）	水島小学校 出前授業	水島エコツアー実施（コンビナート企業編）			水島エコツアー実施（海編）	水島小学校 出前授業	シンポジウム		
【取組課題②】 商店街など地域活力が低下している	水島エコツアーや研修で地域の宿泊施設を活用	水島学講座（商品開発編）①	水島学講座（商品開発編）②	水島学講座（商品開発編）③	商品の試作		水島朝市でお披露目（以降、毎回販売）					
【取組課題③】 若者の地域定着率が上がらない	高校生対象「水島地域の環境・生活調査」の発送	第4回水島学講座（国際編）	分析・とりまとめ		第5回水島学講座（国際編）				第6回水島学講座（国際編）	シンポジウムで報告		

⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 行政（倉敷市）と政策協働についての文書等による確認ができておらず、担当者の異動等により、関わり方が変わってくる可能性がある。倉敷市の事業の中に、本取り組みを位置づけることで、継続的にかかわる体制を作りたい。
- ・ 本事業を経済的に持続可能なものにするためにも、滞在型の学びの受け入れ費用だけでなく、水島コンビナート企業をはじめ、地元企業や地元団体などから、協賛金などの形で財政的にも支援を得られる仕組みを作る必要がある。
- ・ 商店街の空き店舗の活用については、その建築の構造上（1階が店舗、2階が住居など）から、賃貸がしにくい課題があるが、家主に負担をかけない活用法を考えるなどして、協力者を増やす。

■ その他、留意事項などがあればお書きください

- ・ 別事業との連動と切り分けをきちんと行う。
- ・ 各主体のメリットと、責任範囲をきっちり整理しながら、取り組む。